

急

密送第一七七號

機密送第一七七號

滋福浦專管居留地設定ニ關スル正式ノ取極  
ハ京城ニ於テ為サニヨリモ寧ノ口馬山浦ニ於テ帝國  
領事ト韓國國監理トノ間ニ商議決定セシムルコトヲ  
便宜ト認メ至急領事ハ訓示方林ニ使ヨリ上申  
有之候ニ付別紙案文ヲ基礎トシ協定セシム可  
然ト存候得共豫テ貴者ノ決意見承知致度  
右ハ差掛リ候儀ニ付至急何令ノ御回答ヲ煩ハ  
シ度此段及照會候也

明治三十四年六月二十日

外務大臣曾根俊助



陸軍大臣野澤源太郎殿

0253

追而別紙ニ附属スル居留地之図ハ目下馬  
 山總事館ニ於テ調製中ノモノ有之  
 ハ本年五月廿一日付様表の送第(六三)号  
 シテ以テ通知ニ及ビタルモノト曰様ニ考ヘテ

0254

馬山浦日本居当地取極書

第一條 馬山浦日本居当地ノ位置及區域ハ別

紙図面ニ示ス

第二條 居当地内ニ於ケル諸般ノ施設維持及警

察ノ權ハ日本領事ノ管理ニ任ズ

第三條 居当地内ニ在ル韓人所有ノ家屋若ク

ハ地所ニシテ日本政府又ハ人民ノ買収未済ニ係

ルモノハ買収迄ノ間其使用上此取極書ニヨリテ

何等ノ影響ヲ受クルコトナシ但シ韓國人民ハ

直接間接ヲ問ハズ如何ナル手段ニ依リテモ該

地所若クハ家屋ヲ別國人ニ讓與借貸ス

ルコトヲ得ズ

第四條 前條地所若くは家屋、買収に關し所有  
者、提供スル價格ニシテ日本銀兩之ヲ認  
メテ不當トテス時ハ韓王將理ハ日本銀兩  
ト主命書ノ上評價人ヲシテ公平ニ之ヲ評  
價セシムヘシ

第五條 居る地々後ハ一ヘキ年百華方米實ニ  
付<sup>銀貨</sup>銀貨以テ鐵下ス但シ居る地内ニ於テ本  
取極ノ當時既ニ別公人ノ所有ニ便ハ地賣  
至ニ買収未済ノ韓人所有地ハ買収ニ  
至ル迄本條ノ規定外トス又日本ノ人ト紙  
本取極ノ當時既ニ居る地内ニ於テ  
所有スルモノハ其所有地ニ對シ從來ノ通  
ノ地稅ヲ納附スルモノトス

説明、地稅を於て銀貨に支拂ふ又ハ  
 韓領に支拂ふに取極むルハ粟九條  
 に於て露國借入地、例に準ずル  
 若し日本人一已、所有地を稅う從前通り  
 爲すコトに付韓國政府に於て異議あり  
 ハ本条中、又日本人に雖以下に削除し  
 日本人所有者を而平方米實に付以  
 於て支拂はしむル本案に於て存る地  
 稅ハ道路溝渠敷地を以て之を以て  
 粟九條に於て露國借入地と同様なり  
 第六條 居住地其地を海而使用權あり  
 するハ勿論人家稠密其他必要の場合に  
 該海而を埋築するコトを得

0257

第六條  
 第六條

又ハ 五條 道リ 家ア多 陸ニ 付ル 地 即チ 有リ 全ク

0257

第六條第一項ハ尤ノ如ク修正スルヲ可トス  
 日本政府ハ必要ノ場合ニ居留地々先海面ヲ埋築

第六條第二項  
スルヲ得  
 日本條第一項及第六條ニ基テ自然ノ結果ナリハ之ヲ削除スルモ妨ナカレハシ

第一節



0258

埋菜地ハ居る地ニ編入セラルベキモノトシテ其地稅  
ハ前條ノ規定ニ準テス

第七條 現在在在ニ將來ニ於テ轉手ニ政府力ヲ馬  
山浦各系居る地若クハ其附近ニ在ル別ニ  
居る地又ハ借入地ニ對シ別ニ附與スル利  
益ハ早ニ居る地ニモ一律均霑スルモノトス

0259

受領書第二一七號

機密送第 一八二號

去二十日附機密送第一七七號ヲ以テ  
韓王派補浦ニ於テ專管居地ニ  
極ノ許ニ関シ申解シ及ビ申渡シ  
般立馬山限回領事ヲ該居地  
先海而使用准ノ事ニ付韓王監理下對  
該ノ要領外陣官ノ通具申渡シ其查  
スル地先海而使用ノ事ニ付格  
別故障有クモ其意ニ付極書協  
定ノ協合官ニ當リ該監理飽迄之ニ反對  
シ自然申渡シ進リテ阻礙セシムル  
テ候事又第六條中其地先海而使用  
權ヲ有スル勿論ナク一向テ陰手協謀決定

217

0261

0260

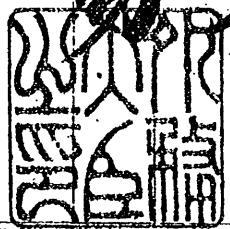
意見





對多松田鎮事、訓示、及、行、者、者、は、  
意、見、一、筆、書、就、終、身、を、為、す、山、浦、の、中、居、る、地、  
亦、極、書、の、案、上、合、也、予、是、急、且、信、道、遠、上、何、  
分、は、向、答、亦、煩、答、也、又、與、合、也、  
思、以、予、等、事、今、月、予、予、予、

包島大直方補素如



陸軍大臣軍曹現玉澤主戸殿

0262



二廿五日迄ノアル所ヲ解スル能ハスルハ是ハ本末出  
 来見スキ案件ノ進行ヲ故ラ新法ナラシム  
 人モノヤリトテ物ヤ感情ヲ害スル事ニ至リタル程  
 様ニ多クシテ其ノ旨本旨ハ何等様徴ノ旨先方  
 二誤解アルコトヲ要知致スニテ本件ノ交渉  
 卜吾リノ海漢ハ姑ク擱キ、本件内協儀ヲ提供  
 尋并シテ何等事方ニ在テ保キ旨意アルハキ各々  
 キコト、并ニ右内儀ニカ、ル理由ノ大體ニツキテ寧  
 及テ度迄ノ致シテ法軍監理モ亦印ニ抱キタル内  
 二ノ誤解ハ確カニ悟リシタルモノトモ見レ、何モ本件  
 ヲ協定者ニ掲載スルコトハ更ニ廿六日為事ヲ認メサ  
 ル事依テハトシテ之ヲ改メシテ、其ノ旨此一事  
 二更シテハ新法ノ理ヲ認メシテ、其ノ旨此一事

夕 秀 月



明治三十四年二月十三日

左馬山

館長 坂田重徳

此後之巨勇補遺物

遺了此年四月而地於了高知事部  
不政府所進也丁大者百計結也  
係之極也中二美し水改海也使用  
ノ明文也於了自然布文章中ノ  
之果細考之キ也白の云也一  
之使ノ今年中ノ多し  
本行ハ書ヲ移シ使ノ道達乃重

0266